

令和5年度 第1回近江八幡市公共下水道事業審議会 会議記録（別紙）

開催日時 令和5年12月13日(水) 午後2:00～4:00
開催場所 近江八幡市水道事業所 3階AB会議室
出席者 ◎西谷会長、○谷上副会長、山下委員、北川委員、小椋委員、
井上委員、福井委員、梅村委員、伊関委員
欠席者 なし
事務局 【水道事業所】 福本所長
【上下水道施設課】 瀧井課長、(下水道G)石原課長補佐
【上下水道総務課】 西川課長、(業務G)大野課長補佐、(経営G)友岡課
長補佐、木村主任主事、藤主事

< 内 容 >

	<p>【1. 開会】</p> <p>【2. 市長挨拶】 水道事業所長による代読</p> <p>【3. 委嘱状交付】 各委員へ委嘱状を交付</p> <p>【4. 自己紹介】 各委員および事務局の自己紹介</p> <p>【5. 会長、副会長の選出】 事務局案により会長に西谷委員、副会長に谷上委員を推薦し、全員の賛同を得た</p> <p>【6. 議事】 (1) 報告 ①下水道事業の概要について ・・・【資料1】に基づき説明</p>
事務局	
会長	丁寧に分かりやすく説明いただいた。下水とは、汚水を処理場に流し自然に返すというものである。近江八幡においては、草津の帰帆島まで巨大な管を通して市内の大半の汚水を流している。例外として沖

	<p>島や、農業集落排水のような、下水管を延長するのが困難な集落があり、そこはそこだけで汚水进行处理している。説明の中で重要なポイントは、滋賀県では雨水と汚水は分流式であり、雨水が下水管に浸入すると処理量が増えてしまう。下水管が古くなると雨水が浸入してしまい、不明水と呼ばれる。処理場の負担を減らすため、不明水を減らすことが重要である。</p>
委員	<p>これらを踏まえて、ご質問等いただきたい。</p> <p>資料6 ページにおいて、集中浄化槽から公共下水道への切替地域において不明水が増加しているとあるが、これらの地域の不明水が多いのはなぜか。私が住んでいるところも開発当初は浄化槽であり平成初期に公共下水道に切り替わっている。</p>
事務局	<p>公共下水道が普及する前に宅地開発された地域では、その地域内だけで管を設置し集中浄化槽とするケースが多かった。当時の下水管はコンクリート管がメインであり、今のようなビニール管と違い接続部分から地下水が浸入する可能性があり、経年劣化もしている。公共下水道への切替工事はそれらの管をそのまま接続するため、不明水増加の原因となる。また、マンホールも古くなっておりそこから雨水が浸入することもある。</p>
会長	<p>昔のマンホールは穴が開いているものもあった。古い下水管は水がしみ込みやすい。</p>
委員 事務局	<p>汚水が外に出しまうことはないのか。</p> <p>下水道は自然流下で流しているが、マンホールポンプで汲み上げている所があり、そういった箇所では大雨が降った際に処理しきれないことがある。近年では平成25年の台風18号で伊勢湾台風並みの雨が降り、竜王の弓削で冠水があった。それによりマンホールから大量の雨水が浸入し、その下流にあたる近江八幡市内で溢水するという事態になった。災害があるとそのような事が起こり得る。</p>
委員 事務局	<p>汚水が地中で染み出して地下水や土壌を汚染することはないか。</p> <p>可能性はゼロではないが地下水の水圧の方が高いため、考えにくい。なお、不明水が多い地域については順次対策工事を行っているところである。</p>
会長	<p>地下水はおいしいという声もあるが、目に見えないため様々な影響を受ける可能性がある。</p>
事務局	<p>②建設事業等進捗について ・・・【資料2】に基づき説明</p>

会長	管は地中にあるので工事は基本的に掘り返すこととなり、費用がかかる。不明水対策においても、問題の箇所をピンポイントで探し当てるのは難しく、課題である。また、管は一度布設すれば流れてくれるが、機械類は寿命が短く更新していく必要があり、更新事業についても説明の中に幾つかあった。
事務局	③令和4年度決算・令和5年度予算について ・・・【資料3】に基づき説明
会長	利益は出ているが、資本的収支は足りていないので一般会計、つまり税金から補助を受けているという状況である。 県下水道課から委員として来られているので、流域下水道の負担金について簡単に説明をお願いしたい。
委員	湖南中部浄化センターでは、近江八幡市含め複数市町からの汚水を処理している。管理運営費については1 m ³ 当たりの単価を定め、流した水量を不明水も含めて掛け算している。近江八幡市の場合は約3億円となっている。
会長	純利益3千万円、減価償却費12億円、長期前受金戻入5億円なので現金の増えは7億3千万円になると思われる。内部留保資金補てん額8億1千万円なので、差し引きして収益で賄いきれない金額が8千万円程あることになる。ところが内部留保資金残高は約4千万円しか減っていないがこれはなぜか。
事務局	再確認させていただく。
会長	予算については、資料3-3の4ページ目、企業債償還が進んだことによる支払利息の減少が目立ったものとなっている。
委員	利息は固定金利か。
事務局	固定金利である。
事務局	④経営戦略について ・・・【資料3】に基づき説明
委員	内部留保資金の目標値1億円以上としている理由はあるのか。
事務局	事業運営において支出が先行するので、支払いが滞らないように一定量を担保しておくというものになる。
会長	営業費用としては17億円規模なので、これに対しては少額である

	<p>が、事業を回していく上では足りる分を確保しているという事。</p>
<p>委員</p>	<p>下水道管の実耐用年数は75年であり、今後、次の更新の資金を準備する必要があるとの事だが、借金が多い今の状況で可能なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料中のグラフを見ていただくと、令和20年代後半から建設改良費が伸びてきているのが分かり、この時期から更新が始まる。今は厳しい経営状況であるが、繰入金等がありながらも企業債は償還が進んでいき、資料には示されていないがその先は資金繰りに余裕が出てくる。この間に次の更新需要に備えておくことになる。</p>
<p>会長</p>	<p>10年後には少し余裕が出てくるとの事だが、その時には人口減少の影響も出てくると思われる。その時々で様々な要因を考えていかなければならない。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料の目標値に対する実績の表が見にくい。例えばマンホールポンプ更新数の目標が毎年4箇所に対し、実績が0であればマイナス4として次年度以降に蓄積され、しっかりとキャッチアップされるのかが見えにくい。管路の調査延長も、5kmを毎年やって合計50km調査するのが目的なので、残りどれぐらいやらないといけないのかが分かると良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>承知した。</p>
<p>事務局</p>	<p>【7. その他】 次回開催について・・・2～3月上旬頃を予定（社会資本整備総合交付金の事後評価について）</p>
<p>会長</p>	<p>コロナ前の審議会において、料金改定の話があったとの事だが、現在は考えていないということで良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>多額の繰入金については課題であるが、収支見通しではこの先数年で企業債償還が進み状況が変わってくる。今現在、改定は考えていないが、令和7年に経営戦略の見直しをする予定であるため、その際には料金についても考慮に入れ、この場でもご審議いただきたいと考えている。</p>
<p>副会長</p>	<p>【8. 閉会】 丁寧に説明いただいた。質疑応答についても勉強になる内容が多かった。今後もよろしくお願ひしたい。</p>